



ひ たか た  
「火を高く焚く」→「ひったか」!



千歳橋からみた妙見山(平成30年)

「ひったか」は、提灯で絵模様を描く伝統的な火祭りです。吉田川をはさんで東にある行者山(源氏方)と西にある妙見山(平家方)の中腹に木枠を組み、それに300～400個程度の提灯をつるして、絵模様を浮かび上がらせ、その絵柄を競いあいます。図柄はその年の話題が題材になることが多く、当日まで秘密にされます。伝承によると、源平の戦いのおり、西浜を守って



行者山(平成30年)

いた平家方の陶山氏が、山にかがり火を焚いて大軍に見せかけ、せまり来る源氏方を退散させたことに由来するといえます。

また、当日は地元の小学生による「こどもひったか」が披露されたり、夜店が出たりして、金浦の町がにぎわいます。



かな うら りょう し まち でんとう ふね  
むかし金浦 漁師町！ 伝統の船レース！



おしぐらんど

金浦の「おしぐらんど」は、源平の戦いに由来するともいわれる伝統行事です。地元の言葉で、櫓を漕ぐことを「押す」、走り競争のことを「かけりぐらんど」ということから、おしぐらんどは「船漕ぎ競争」という意味になります。2艘の和船にそれぞれ6人ずつ乗りこみ、源氏方（白）と平家方（赤）に分かれて競い合います。一時は中止となったこともありましたが、地元 노력により昭和62（1987）年に復活し、盛大に開催されています。

夜のひったかと昼のおしぐらんどは一体の行事といわれ、もとは旧暦五月五日、端午の節句の行事でした。現在はそれに近い土曜日の夜にひったかを、翌日曜日の昼の満潮時におしぐらんどを行います。





42

# かさおか太陽の広場

笠岡市カブト東町～拓海町 笠岡湾干拓地内 管理棟 ☎0865-66-2500

アクセス 笠岡駅から  
車で10分 駐車場あり



かさおか わん かん たく てい ぼう り よう なが こう えん  
笠岡湾干拓の堤防を利用した長～～い公園！



噴水広場

かさおか太陽の広場は、市制施行40周年記念事業として平成6(1994)年5月に完成しました。自然いっぱいの花壇や噴水広場、芝生広場、遊具広場などがあり、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方々に利用されています。公園入口の管理棟で申し込みすると、自転車やスケートボード、バスケットボール、サッカーボール、バレーボールなどを無料で利用することができます。駐車場は7か所あり、480台程度利用可能です。



自然いっぱいの花壇と管理棟





43

みち えき かさ おか  
道の駅 笠岡ベイファーム

アクセス 笠岡駅から  
車で20分 駐車場あり

笠岡市カブト南町245-5 笠岡湾干拓地内 事務所 ☎0865-67-6755



し き おり おり はな いちめん ひろ  
四季折々の花が一面に広がります！



道の駅笠岡ベイファームは、平成23(2011)年に笠岡湾干拓地内の一般国道2号笠岡バイパス沿いにオープンしました。道路利用者への情報や休憩サービスの提供はもちろんのこと、笠岡の特産品や土産物などの直売所、観光情報コーナー、レストランなどの施設を備えています。3月の菜の花、5月のポピー、8月のひまわり、10月のコスモスなど四季折々の花が咲く広大な花畑があり、利用者の目を楽しませてくれます。



コスモス畑



道の駅笠岡ベイファーム





「生きている化石」！ カブトガニの一大生息地！



カブトガニは約2億年前から姿形を変えていないことから「生きている化石」とわれています。日本では瀬戸内海から九州北部の沿岸に生息していますが、環境の変化によって各生息地で個体数が減少しています。繁殖するためには、産卵のための砂浜と幼生が育つための干潟が必要で、笠岡市のカブトガニ繁殖地には、その2つがそろっています。毎年夏の夜、湾内で産卵が行われます。ふ化した幼生は、10年以上かけて脱皮をくり返し、成体になります。



カブトガニ幼生の放流の様子



# 45 笠岡市立カブトガニ博物館

笠岡市横島1946-2 ☎0865-67-2477

アクセス「カブトガニ博物館」バス停から  
徒歩1分 駐車場あり



世界で唯一！カブトガニの博物館！



カブトガニ博物館と恐竜公園

カブトガニ博物館は、カブトガニの調査研究や繁殖地の保護を目的として平成2（1990）年に開館しました。博物館では、生きたカブトガニに会うことができます。館内中央のカブトガニシアターではカブトガニに関する映画が上映されています。

また、隣接する恐竜公園には、学術監修を受けて復元されたティラノサウルスやブテラドンなどの実物大模型があり、恐竜の生きた時代にタイムスリップすることができます。

開館時間／9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日／月曜日、祝日の翌日、年末年始  
（無休期間もあります）

入館料／小中学生 210円 高校生 310円  
一般 520円（団体料金あり）






 かい づか じょうもん じ だい  
 貝塚、それは縄文時代のタイムカプセル！


貝塚は昔の人が食べた貝の殻などを捨てた場所のことです。たくさん貝殻に混じって、何千年も前の縄文土器や石器、骨角器、動物や人間の骨などが残っているため、当時の人々の暮らしや環境がどのようなものだったかを知ることができます。

津雲貝塚では、大正時代に約20回もの発掘が行われ、170体以上の縄文人骨が見つかりました。これらの人骨は、日本人のルーツを探る第一級の資料となっています。







いり え しん でん にし おお しん でん つく こう ろう しゃ  
入江新田・西大島新田を造った功労者！

かんぶん 寛文11(1671)～  
ほうれき 宝暦11(1761)年



墓からみた入江新田と西大島新田



今立川河口の石碑と墓のある丘の遠景

鳥越新兵衛成寿(読み方不明)は現在の矢掛町に生まれ、大坂で土木業を営んでいました。江戸時代の正徳3(1713)年、大坂で得た技術をふるさどで生かそうと、小田郡横島村と浅口郡西大島村との間の干拓事業を笠岡代官所に願い出ました。苦勞のすえ、12年後の享保10(1725)年によりやく許可がでて、すぐに工事を始めました。享保16(1731)年、ついに大干拓地が完成し、入江新田、西大島新田、浜中新田と名付けられました。この功績によって新兵衛は入江新田村の庄屋となり、鳥越家は代々、庄屋を務めました。

墓は新田を見下ろす小高い丘の頂上にあります。丘のふもと(今立川河口)には、「鳥越新兵衛翁頌徳碑」が立っています。





せ と ない かい み お てん ぼう だい  
瀬戸内海を見下ろす展望台です！



幻虹台は、御嶽山の標高約280m地点にある展望台で、瀬戸内の島々を望む、素晴らしい眺めが広がっています。幻虹台という名前は、「国立公園の父」と呼ばれる田村剛によって名付けられました。田村氏が当時の村長にあてた手紙には「春霞 海に横たう島の虹」という句がつけられています。

なお、瀬戸内海国立公園には、御嶽山のほか、子殿洲、孫殿洲、そして北木島をのぞく笠岡諸島全域が指定されています。



49

# 御嶽山量剛寺跡

市指定史跡

アクセス 車で登山可能  
付近に駐車可能

笠岡市西大島 御嶽山山頂



さんちょう こ だい じ いん  
山頂にあった古代寺院！



み たけ さん ひょう こう めい ざん  
御嶽山は標高320mの名山で  
さん ちょう き う じん じゃ  
す。山頂には祈雨神社があります  
けい だい りょう こう じ あと  
が、その境内が量剛寺跡です。  
ふる じ いん あと たて もの そ せき  
古い寺院の跡で、建物の礎石や  
ぬの め つ かわら み  
布目が付いた瓦が見つかっていま  
へい あん じ だい えん にん しょう にん じ かく  
す。平安時代、円仁上人(慈覚  
だい し どう き こく さい  
大師)が唐から帰国された際、こ  
さん ちょう てら こん りゅう  
の山頂に寺を建立しましたが、そ  
ご た  
の後、すたれて絶えてしまったもの  
つた  
と伝えられています。

50

# 正頭の五輪石塔

市指定重要文化財

アクセス 大島海の見える家  
から徒歩5分

笠岡市大島中 字正頭1710



はくりよくまんてん し ない さい だい きゅう こ りん どう  
迫力満点！ 市内最大級の五輪塔です！



おお しま なか しょう どう き おお ご りん どう あさ の し せん ぞ ば か つた き  
大島中の正頭にある2基の大きな五輪塔は、浅野氏の先祖墓と伝えられています。2基とも  
ぜん たい てき まる お から かた ら む ひだり たか みざ せき ざい か がわ けん  
全体的に丸みを帯びた形で、向かって左は高さ163cm、右は155cmです。石材は香川県でとれ  
る凝灰岩を使用しており、鎌倉～室町時代に造られたものと考えられます。地元では「お大名」  
ごよう かい がん し しょう かま くら むろ まち だい つ かんが じ もと だい みよう  
と呼ばれ、地区の方々に大切にされています。



51

たけ だ いな り

## 竹田稲荷のアベマキ

市指定天然記念物

アクセス「竹田」バス停  
から徒歩5分

笠岡市大島中7192 竹田稲荷神社境内



じゅ れい やく

ねん

し ない さい だい

き

樹齢約300年！ 市内最大のドングリの木！



御嶽山の北麓に大島中の竹田稲荷神社があり、社殿のすぐ横に1本の大きなアベマキが立っています。幹の周囲3.5m、高さ21m、推定樹齢は約300年です。アベマキは、山地に生えるブナ科の落葉高木で、秋には沢山のドングリができます。

江戸時代の元和3(1617)年、渡辺与四郎が浪士となり、現在の井原市木之子町から当地へ来て、木之子の城中にあった稲荷神社を屋敷裏のマキの木の下へ守護神としてまつたのが、竹田稲荷の始まりといえます。



さむらい ねん いじょう でんとう ほこ ほそかわこう ほん おど  
侍スピリット! 300年以上の伝統を誇る細川公ゆかりの盆踊り!



斬り合い

大島の傘踊りは、笠岡市大島地区に伝わる盆踊りです。二人一組になり、傘を刀に見立てて斬り合うように踊る点が特徴で、「大島音頭」に合わせて、出踊り、忍び、斬り合いの3種類の型を順に踊ります。江戸時代の貞享3(1686)年、戦国時代の領主であった細川通董の百回忌に、武芸を取り入れた供養踊りを奉納していたところ、たまたま夕立があり、刀の代わりに雨傘を使用して踊ったことが始まりと伝えられています。



出踊り





53

こうのしま し りょう かん

## 神島史料館

アクセス 「中村口」バス停から徒歩1分  
公民館となり 公民館に駐車場あり

笠岡市神島4136番地

ち い き ち から かん せい こうのしま し りょう かん  
地域の力で完成した神島の資料館！開館時間／平日のみ 9:00～12:00  
12:30～15:30

公民館に依頼すれば見学できます。

☎0865-67-4124(神島公民館)

入館無料

平成元(1989)年10月に完成した、神島公民館の  
東隣にある資料館です。館内には、神島の歴史や文  
化に関する歴史・考古・民俗資料を展示しています。  
展示は、地域住民がボランティアで行いました。

54

こうのしま てん じん まつり

## 神島天神祭

市指定重要無形民俗文化財

開催日 9月3日曜日(本祭り)  
当日、臨時駐車場あり

笠岡市神島5335 神島天神社ほか

ひっ けん こうのしま ち く そう かつ  
必見！ 神島7地区の総担ぎ！

華やかに飾られた船

こうのしま ち く しん とう なか むら しる かつ ふく うち こう てん ま み きき せん だい ろく こうのしま てん じん しゃ あつ  
神島7地区(神東、中村、汁方、福浦、高、寺間、見崎)の千歳楽が神島天神社に集まる  
にぎやかな秋祭りです。もともと神島は離島であり、千歳楽は船を使って海から神社へとやって  
来ていました。かさ おか わん かん ぐ はく ち う な ち く くら つか りく そう へん か  
笠岡湾干拓によって泊地が失われた地区では車を使った陸送へと変化しましたが、  
いく つか の 地区 ち ゅく ふね つか しん じや はい かい じょう と きょ てん どう いま の こ せん ち ゅく せん  
いくつかの地区では船を使って神社に入る海上渡御の伝統を今でも残しています。全地区の千  
歳楽がそろって境内で一斉に練る「総担ぎ」を行います。





さが あ あづち もも やま じ だい せき どう  
キミは探し当てられるか!? 安土・桃山時代の石塔!



閑香の塔婆は、神島外浦の日光寺北側の墓地にあります。高さ約90cm、花崗岩製の石塔で、円柱形の塔身と丸い笠をもっています。このような形の墓石はとても珍しいものです。塔身は劣化がすすんでいますが、正面に「閑香」という文字を刻み、「天正十二年申八月」（1584年）の文字を両側にふりわけて「天八申」「正十二」と刻んでいます。

すぐ西隣にある法界地蔵が目印です。



日光寺からの遠景





56

高島

国指定名勝

アクセス「島内にハイキングコースあり  
神ト山展望台へは高島港から徒歩30分

笠岡市高島

じん む てん の う でん せつ いま いき しま  
神武天皇伝説が今も息づく島！

神ト山展望台

笠岡市の高島は、国指定名勝で、瀬戸内海国立公園にも指定されています。島の最高峰である神ト山（標高77m）からの眺めはすばらしく、瀬戸内海に浮かぶ島々を眼下におさめることができます。

島の各所に、神武天皇にまつわる伝説が残っており、高島が『古事記』『日本書紀』に記された神武天皇ゆかりの地「高島宮」の跡地であると、古くから信じられてきました。神ト山山頂にある巨大な「高島行宮遺趾碑」は、高島宮の候補地であることをアピールするために大正8（1919）年に建てられました。



高島行宮遺趾碑



せん じ ちゅう はっ かつ ちよう さ しま じょうねつ せい か  
戦時中に発掘調査！？ 島の情熱がもたらした成果！



たか しま じん じゃ けい だい ち か じょうもん じ だい こ ふん じ だい い せき おお どり い せき ねむ  
高島神社の境内地下には、縄文時代から古墳時代にいたる遺跡(王泊遺跡)が眠っていま  
す。戦時中の昭和18(1943)年、高島が「高島宮」跡地であるという伝承を確かめるために、地  
元の方々を中心とする発掘調査が行われました。調査は東京大学や京都大学の人たちが受け  
継ぎ、縄文土器の研究などで大きな成果をあげました。なお、調査当初に「住居跡」と考えられ  
た場所は、現在では海水を煮詰めて塩を作るための炉跡であったと考えられます。



塩を作るための土器(古墳時代)



58

しら いし じま

## 白石島

国指定名勝

アクセス 山頂をむすぶハイキングコースあり  
展望箇所へは白石島港から徒歩30分～1時間

笠岡市白石島



いち ど み

せ と ない かい

いち だい

一度は見ておきたい! 瀬戸内海の大パノラマ!



白石島は国指定名勝で、瀬戸内海国立公園にも指定されている景観が美しい島です。白石島という名にふさわしく、島のいたるところに白色の花崗岩が露出しています。山頂にはハイキングに適した遊歩道が整備されており、はと岩や大玉岩からの眺めは絶景です。白い山肌と緑の木々、美しい海岸線がみごとに調和しています。また、島外に目を移すと、笠岡諸島をはじめとする瀬戸内海の島々の雄大な景色が広がっています。

島の北部に広がる平地は、江戸時代に福山藩によって干拓された土地です。港は天然の良港で、瀬戸内海航路の重要な停泊地にもなっていました。



白石港付近に立つ石碑



しら いし じま ほこ でん どう ぶん か  
白石島の誇る伝統文化！



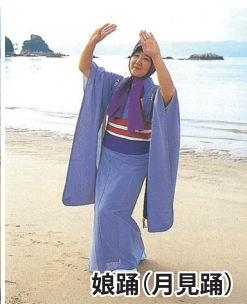
白石島に古くから伝わる盆踊りで、岡山県内はもとより、全国的にも注目される珍しい踊りです。一つの口説き(音頭)に合わせて何種類の踊りを踊る点が特徴で、男踊・女踊・娘踊(月見踊)・笠踊・奴踊・ブラブラ踊など13種類の踊りが伝わっています。音頭には「那須与一」などの唄があります。瀬戸内海で行われた平原水島合戦の戦死者の霊を弔うために始まったと言い伝えられています。



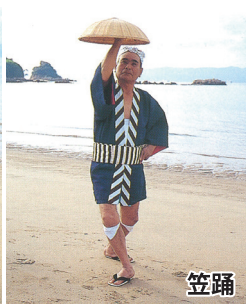
男踊



女踊



娘踊(月見踊)



笠踊



60

しら いし じま

よろい いわ

## 白石島の鎧岩

国指定天然記念物

アクセス 白石島港から  
徒歩約40分(要登山)

笠岡市白石島



自然の偶然が造りだした不思議な模様の岩！



白石島の鎧岩は、標高約128mの「鬼ヶ城」という山の山頂付近にみられる大きな岩です。地下でマグマが固まる際に、碁盤の目のような四角形の割れ目（方状節理）ができて、この模様が生まれました。それが長い長い年月をかけて土地の隆起とともに地表に現れたのです。まるで大男が着る鎧のように見えることから「鎧岩」と名付けられました。



「鬼ヶ城」遠景



61

かい りゅう じ  
開龍寺

日本遺産構成文化財

アクセス 白石港から  
徒歩20分

笠岡市白石島

こう ぼう だい し でん せつ きょ せき した た だい し どう  
弘法大師伝説と巨石の下に建つ大師堂！

開龍寺は、真言宗のお寺で、源平水島合戦による戦死者を弔うため元暦元(1184)年に建立されたといわれています。また、江戸時代初期には、この地が備後福山藩水野家の領地だったため、その祈願寺として栄えた歴史もあります。最も奥には、弘法大

師伝説の残る大師堂があります。巨石の下に建てられており、神秘的な雰囲気をかもし出しています。大師堂は、神島八十八か所霊場の奥の院にもなっており、巡拝者が訪れます。

62

しら いし じま いし どう ろう  
白石島の石灯籠

市指定重要文化財

ぶくやまはん みす の こう いし どう ろう  
福山藩・水野公ゆかりの石灯籠！

白石島の石灯籠は、開龍寺の奥の院大師堂の前に立っています。花崗岩製の石材を組み合わせており、高さは168cmです。石灯籠は火袋の中にろうそくや油を入れて、火を灯して使います。市内で一番古い石灯籠といわれ、寛文12(1672)年に福山藩4代藩主の水野勝種が寄進したことを書いた銘文があったといいますが、風化のため現在では判読できなくなっています。